

刈谷知立環境組合の概要

トリプルエー

「安全、安定、安心(AAA)」を基本理念に施設の運営管理を行っています。

- クリーンセンター 焼却施設(平成21年竣工) / 破碎施設(昭和61年竣工)
- 余熱利用施設【ウォーターパレスKC】(昭和62年竣工)
(余熱利用の温水プール等)
- リサイクルプラザKC (管理棟2階 平成21年開設)
(家庭の不用品等の展示販売、再生補修家具の展示入札販売)



クリーンセンター



余熱利用施設



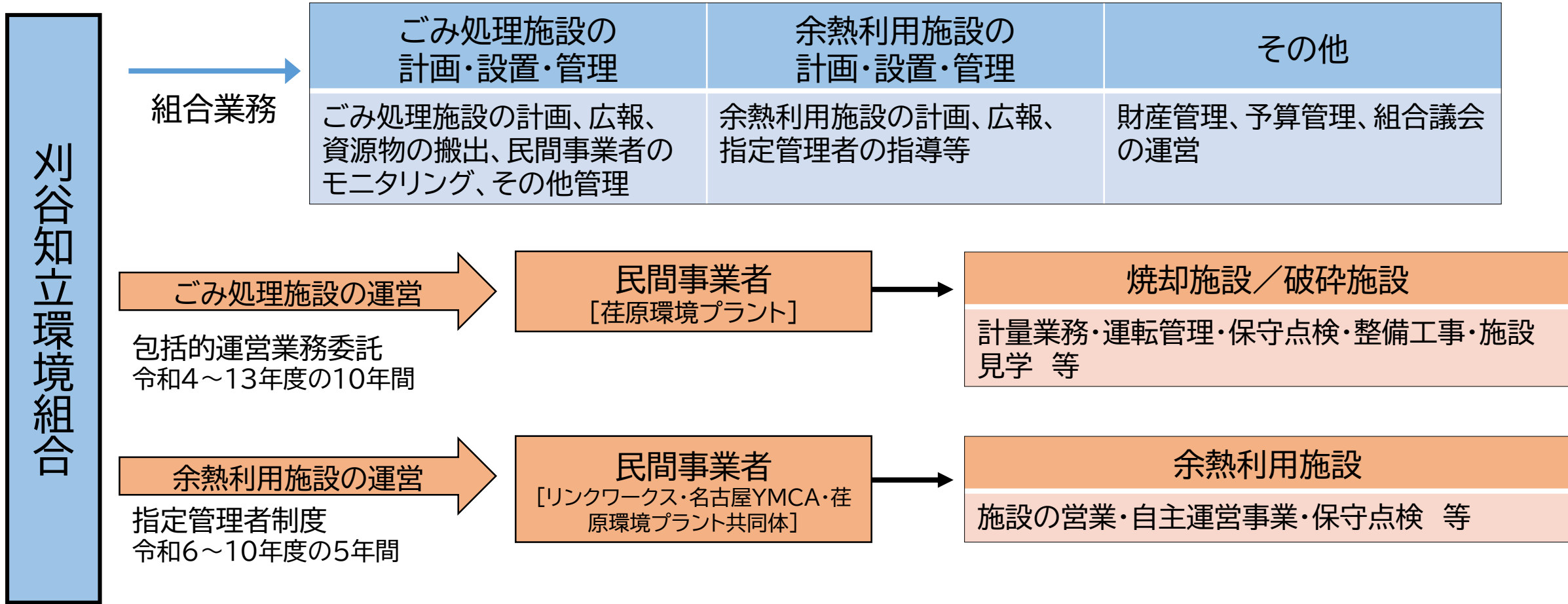
リサイクルプラザKC



再生補修家具の販売

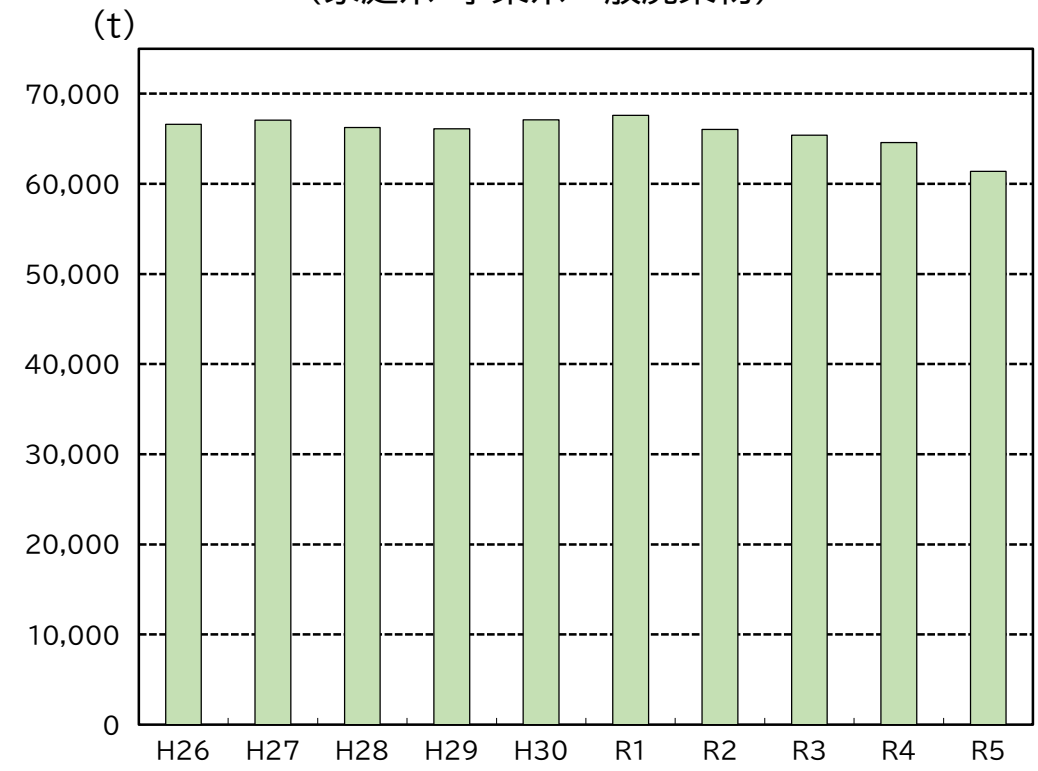
- 刈谷知立環境組合(一部事務組合として昭和41年設立)
 所長 1名 、 業務課：課長以下9名＋会計年度任用職員2名

業務内容

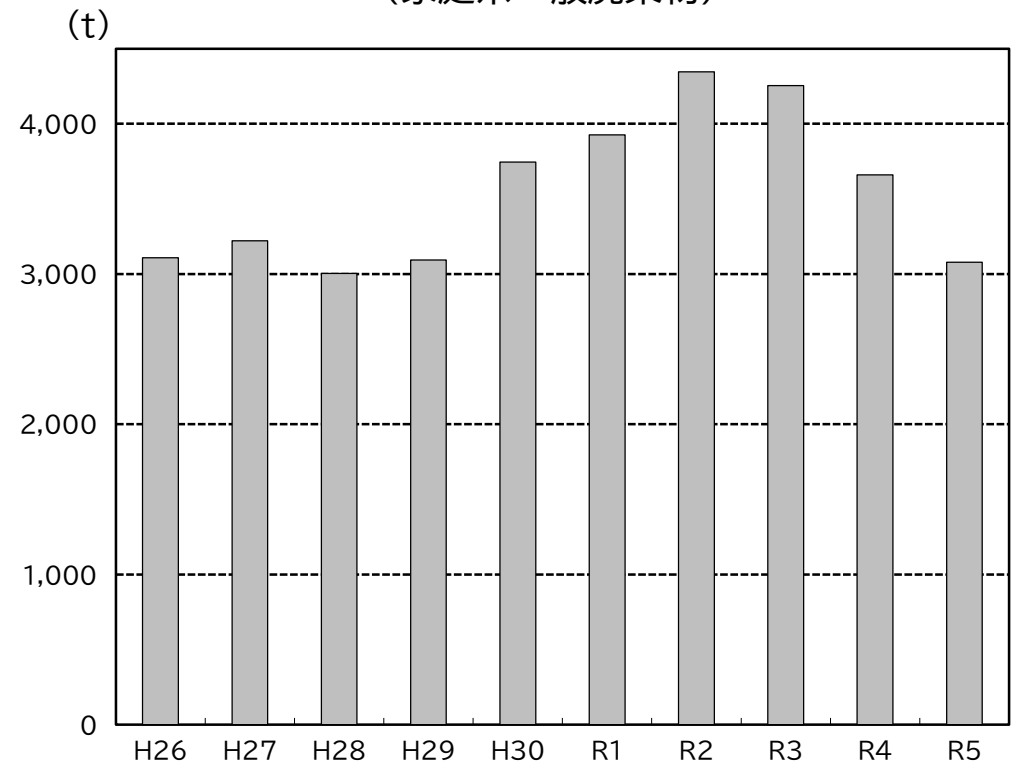


・クリーンセンターでは、刈谷市内及び知立市内で発生した可燃ごみや家庭系粗大ごみの受入れを行っている。

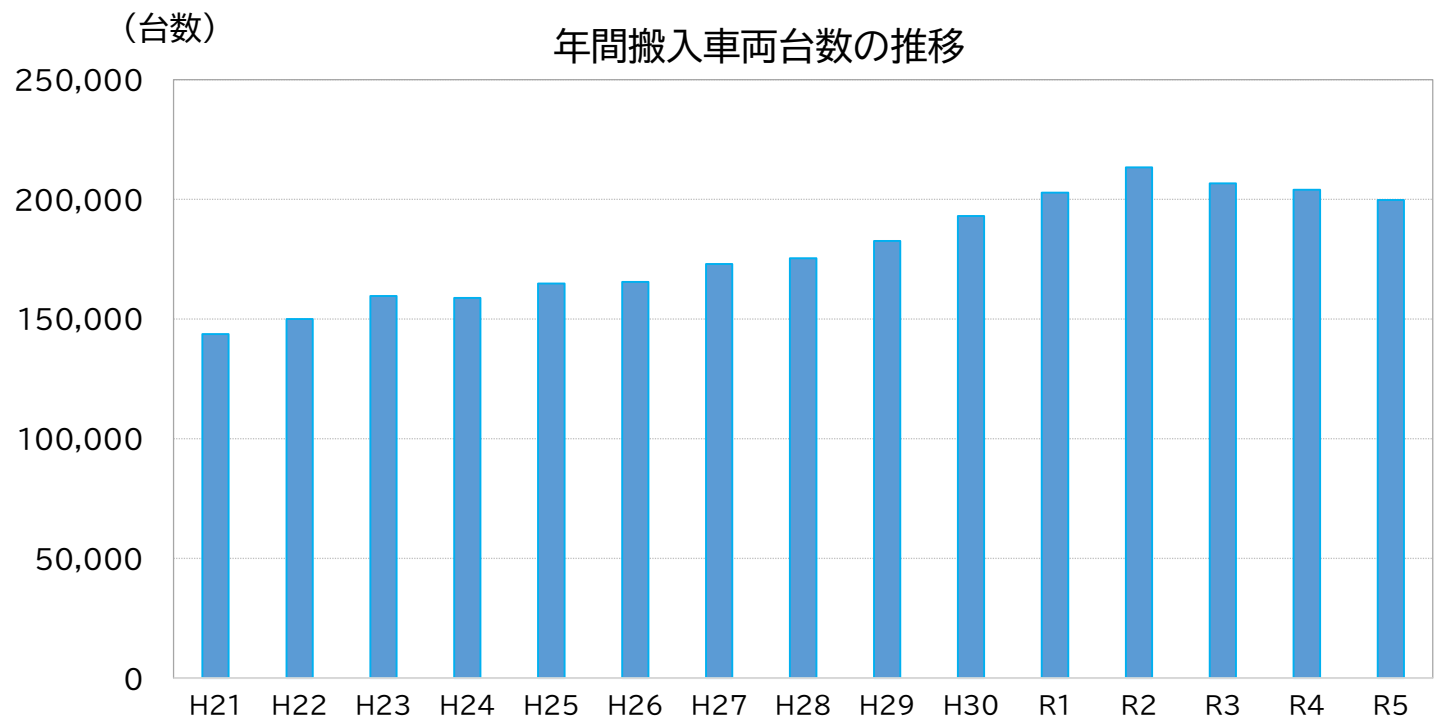
可燃ごみ搬入量 (家庭系・事業系一般廃棄物)



粗大ごみ搬入量 (家庭系一般廃棄物)



- 年間搬入車両台数約20万台、県下第1位。
(1日平均650台、平日500~700台、土曜日900台) 繁忙期(GW・盆・年末年始)最大1,200台
- ごみの搬入車両は、平成21年度の稼働から1.4倍となっている。
ごみを持ち込む理由は、自宅の片づけが最も多く、次いで草木等の搬入である。
- 持ち込みは、45kg未満の可燃ごみが60%を占める。



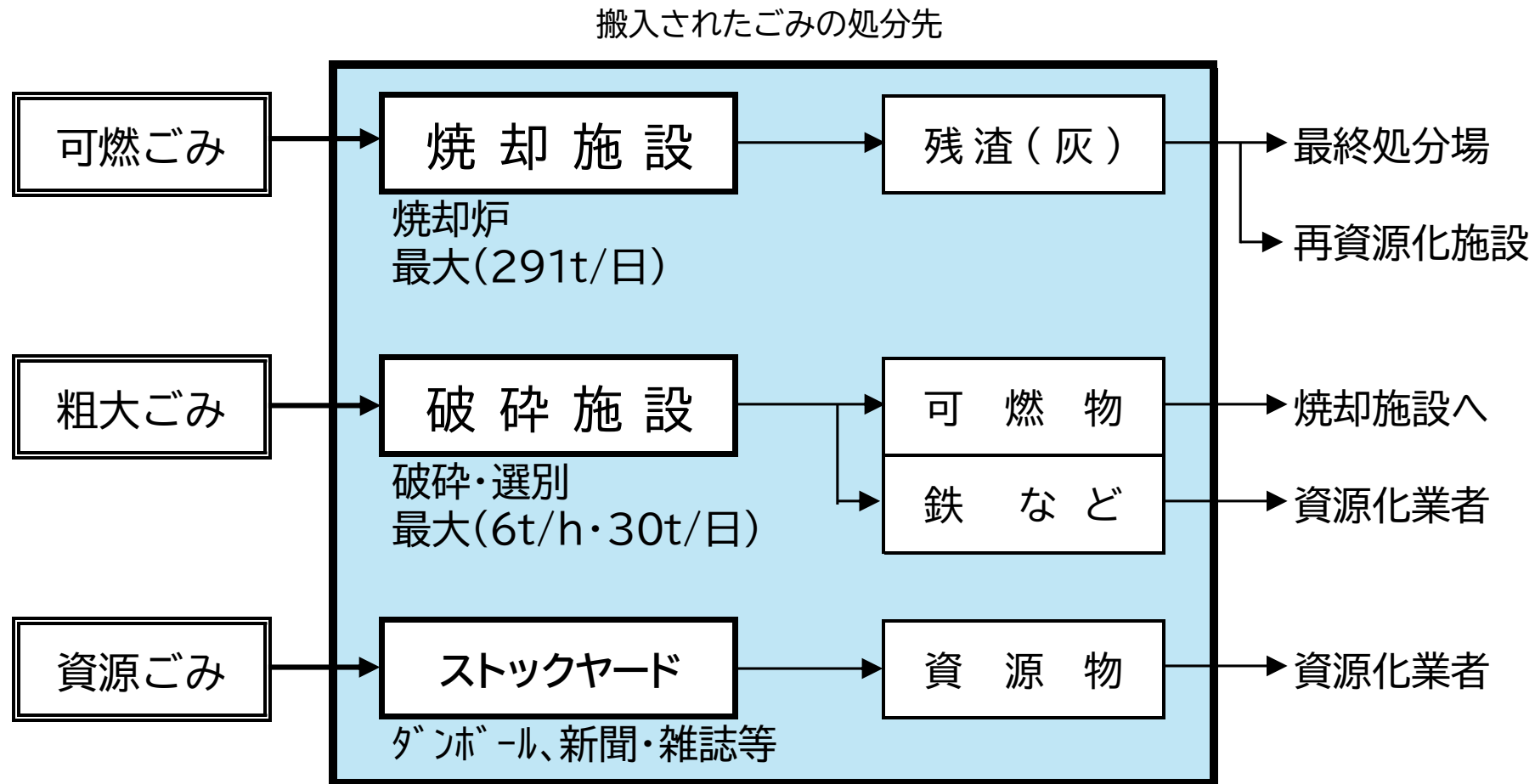
- 事業系一般廃棄物のごみ処理手数料は、100円/10kgで、約2億円の手数料収入あり。
- 家庭系一般廃棄物の処理は、現在、無料。
- 他市のクリーンセンターと比べるとごみ処理手数料が安価であり、他市からのごみ搬入が含まれる可能性あり。

近隣団体の有料化の状況

地方公共団体名	構成市町名	受入料金	
		家庭系	事業系
豊田市	—	200円	200円
安城市	—	50円 (30kg超)	100円
東部知多衛生組合	大府市、豊明市、東浦町、阿久比町	200円	200円
衣浦衛生組合	碧南市、高浜市	50円 (100kg超)	100円
尾三衛生組合	日進市、みよし市、東郷町	200円 (20kgまで400円)	200円 (20kgまで400円)
刈谷知立環境組合	刈谷市、知立市	無料	100円

注)受入料金は10kgあたりの価格。

- ・クリーンセンターに搬入されたごみは、焼却施設や破碎施設で中間処理された後、灰の処分や有価物資源として回収する。

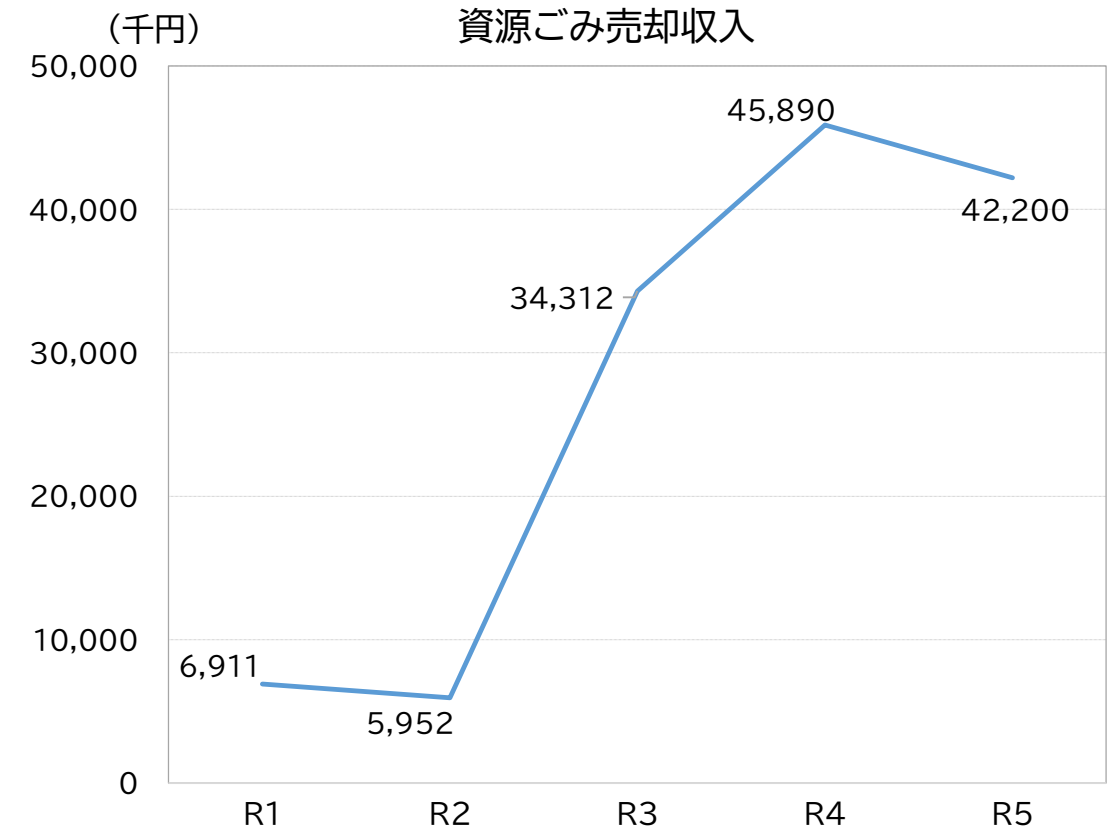


・クリーンセンターに搬入された資源ごみは、有価物として回収して再資源化。

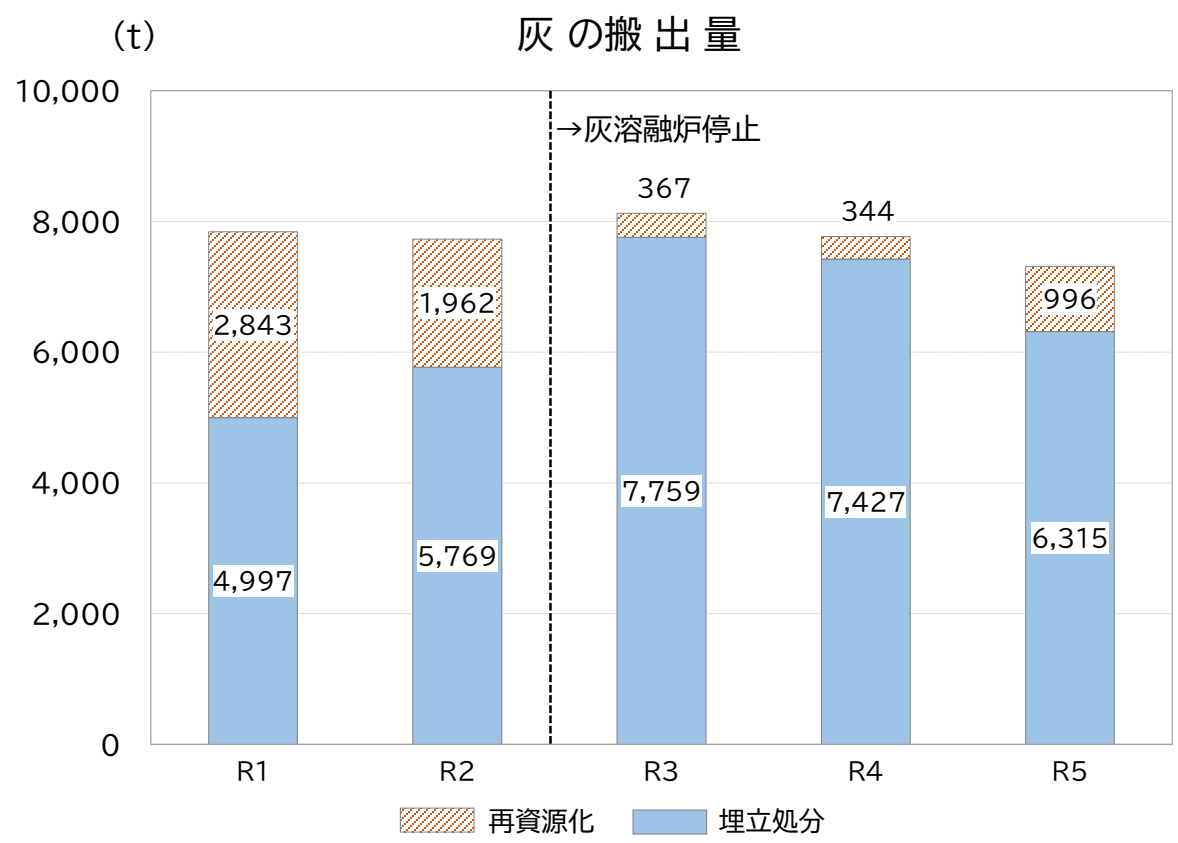
資源ごみの回収量(令和5年度)

品目	年間回収量 (t)
ダンボール	124.0
新聞・雑誌	133.4
鉄(破碎鉄含む)	514.0
アルミニウム	38.3
銅	9.9
その他家電	226.1
衣装ケース※	11.5

※令和4年9月から回収開始



- 令和2年度までは焼却灰をクリーンセンターの溶融炉でスラグ化することで再資源化。
→令和3年1月に溶融炉を停止。
以降の焼却灰は、最終処分場での処分と民間の施設で再資源化。
- 構成市における資源化率を向上させるため、焼却灰の再資源化率の向上が必要。



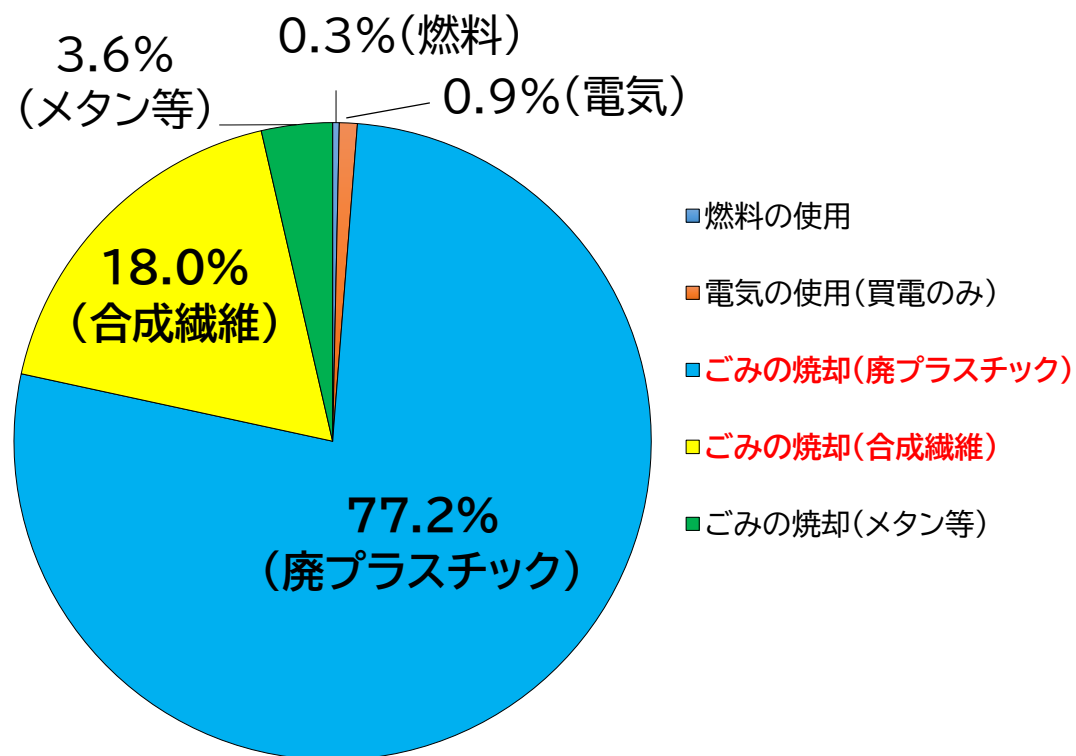
構成市のごみ減量施策

項目	刈谷市	知立市
数値目標	令和17年度 (令和3年度比)	令和8年度 (令和3年度比)
1人1日あたり 家庭系ごみ排出量	508g/人・日 (11%減)	603g/人・日 (2.3%減)
資源化率	17% (1.8pt増)	16.2% (2.4pt増)
家庭系食品ロス量	2,459t/年 (56%減)	—
特筆すべき施策	食品ロスの削減など、家庭で取り組みやすい排出抑制方法の啓発	3キリ運動の推進などによる生ごみの削減
	プラスチック製品の回収や資源化(今後)	不用品交換システムの利用促進、リユースマーケットの活用促進

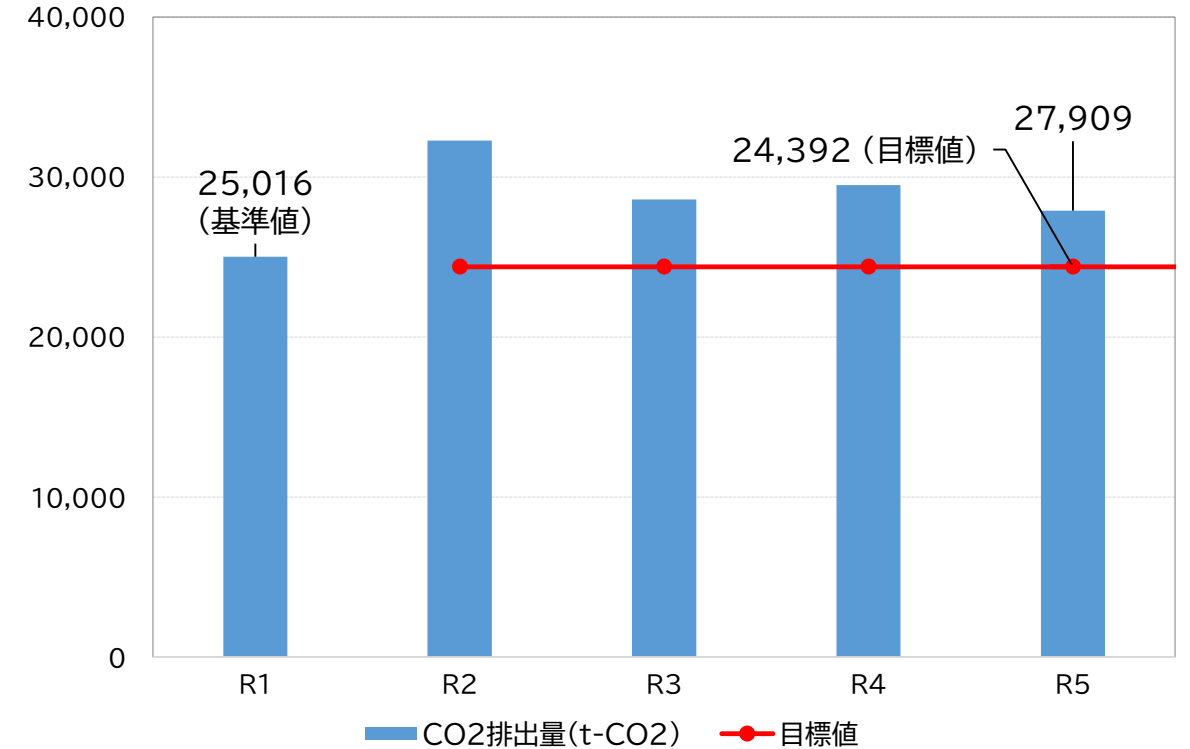
- ・温室効果ガス排出の大部分は、「廃プラスチック」と「合成繊維」のプラスチック類が占めている。
- ・温室効果ガス排出量は、年々減少傾向だが、目標値※を未達成。

※関係法令に基づいて策定した計画に定める目標値
今後、国の削減目標により、令和11年には年間20,376tとなる。
(2030年までに2013年比、約15%削減)

温室効果ガス排出量の内訳(令和5年度)

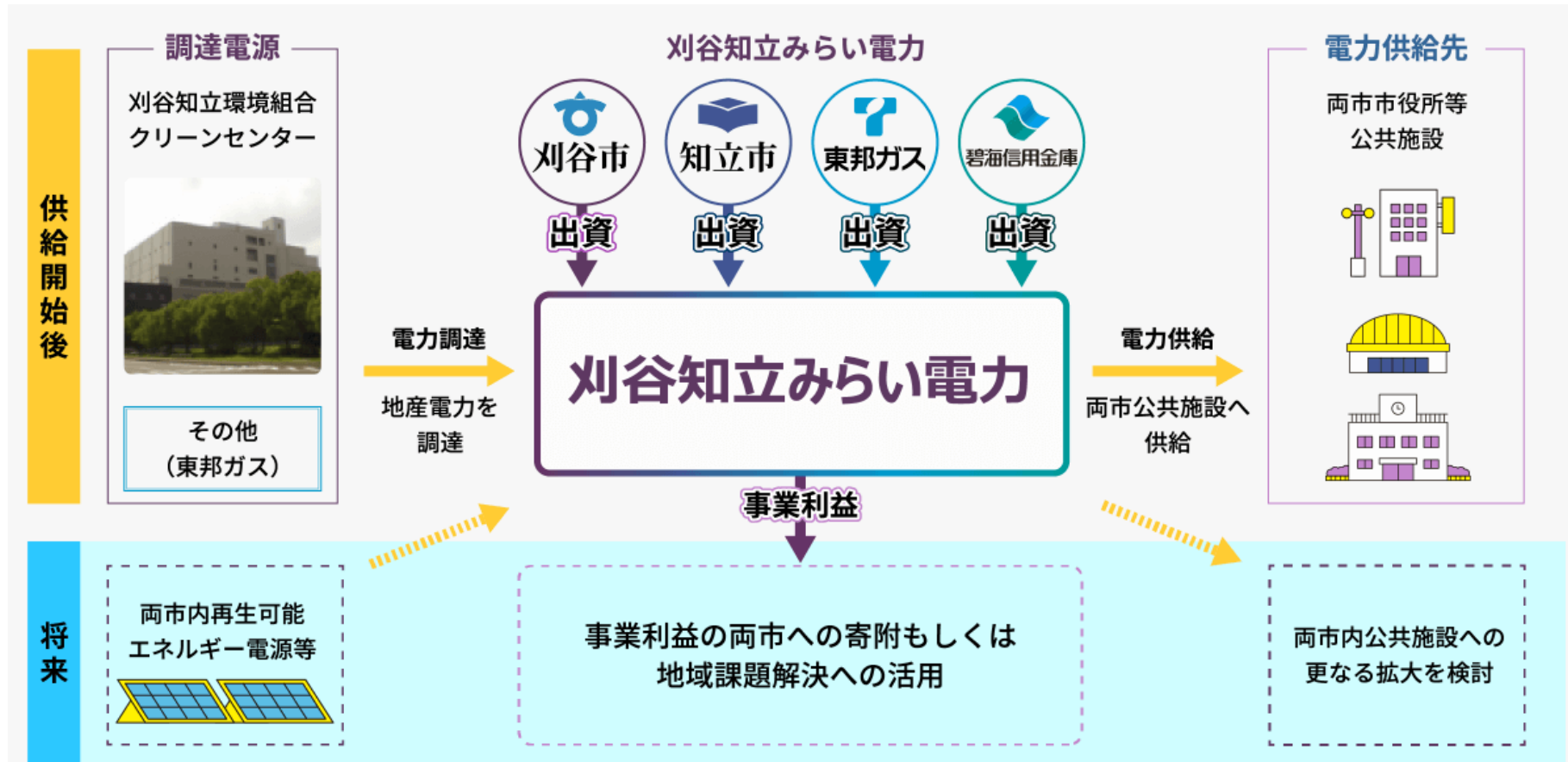


温室効果ガス排出量 (t)

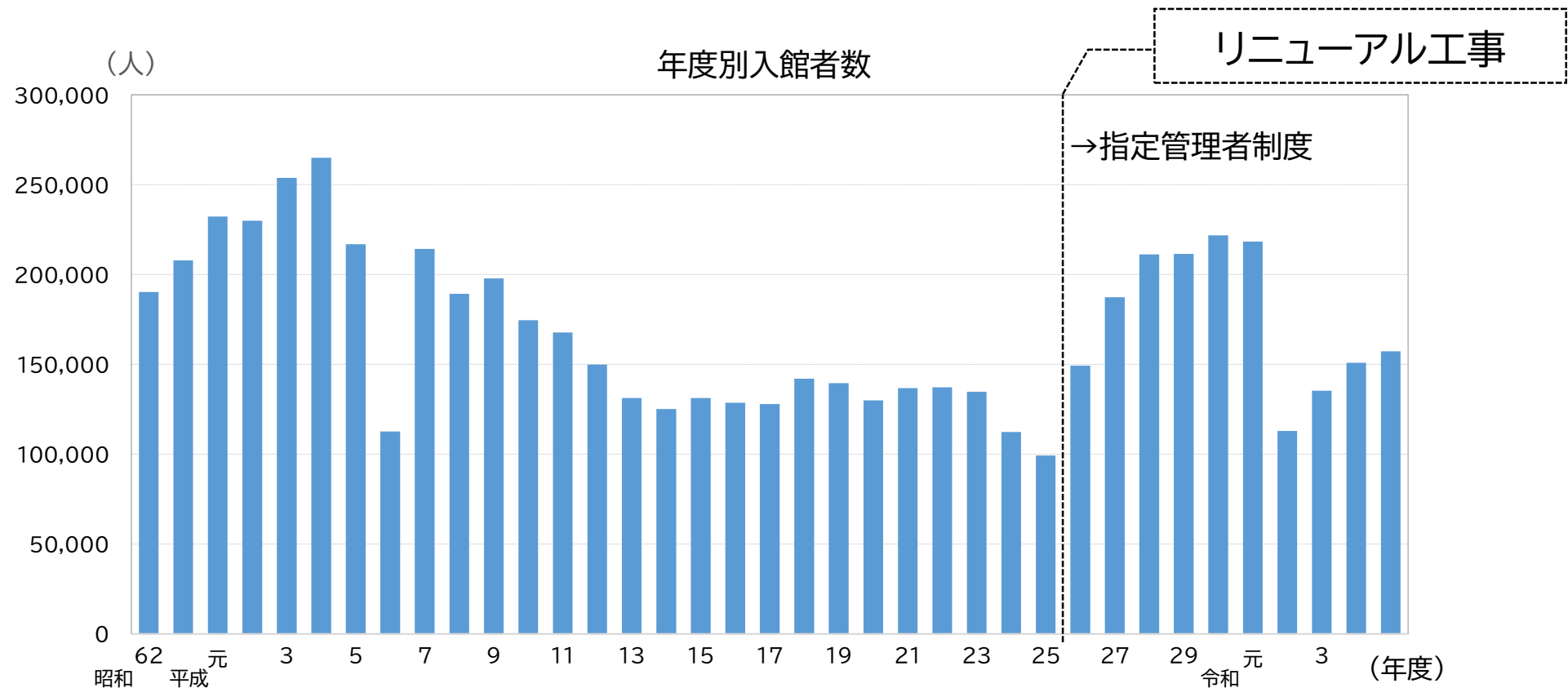


クリーンセンターの現況(ごみ焼却による余熱利用) P10

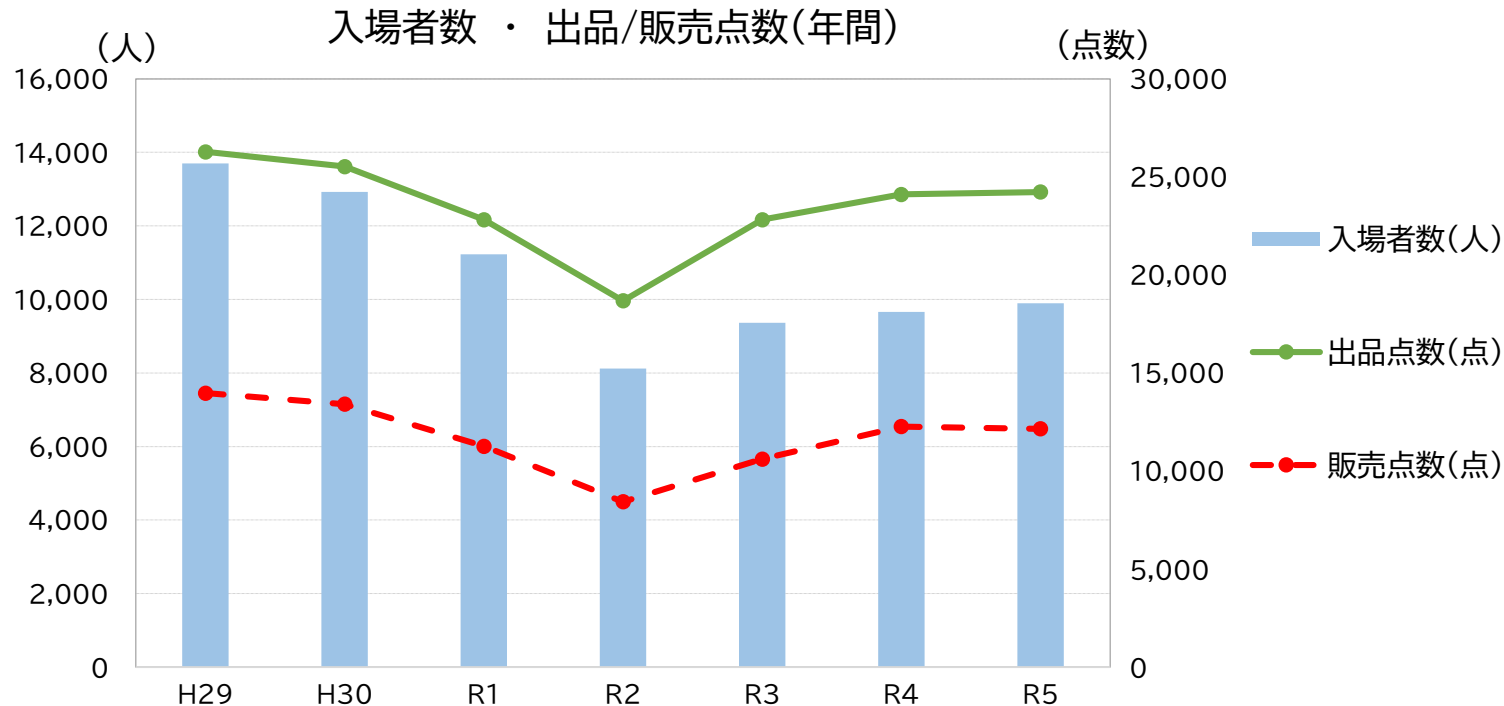
- ごみ焼却により生じた熱によって廃熱ボイラ内で発生した蒸気は、蒸気タービンに入り発電のために使われ、余剰電力を刈谷知立みらい電力を通じて刈谷市・知立市の公共施設へ供給している。(14,500MWhを売電し、約2億円の収入)
- 余った蒸気は、余熱利用施設に熱供給している。



- 平成26年度から指定管理者制度を導入し、施設を運営。指定管理者制度の導入後、来場者数は増加傾向。
- 年間来場者数は、コロナ禍以前で20万人を超える。
- 昭和62年度の供用開始から38年が経過し、補修工事を行っているが劣化が進行。



- 3Rを推進する事業として、第2のリサイクルプラザとして平成21年4月に開設。現在は、入札による再生補修家具等の展示・販売事業も実施。
- 業務委託により運営。
委託先：リサイクルプラザ運営管理→かりや消費者生活学校、再生家具補修業務→刈谷市シルバー人材センター
- 出品点数に対する販売率は、50%程度。
- 再生補修家具等の出品点数に対する落札率は、65.4%。



再生補修家具等入札実績(令和5年度)

項目	数
出品点数(点)	738
入札数(札)	1,922
落札点数(点)	483
落札金額合計(円)	369,200
落札率(%)	65.4

- 国の施策などにより、ごみ処理に求められるものが変わってきている。
- 今後、課題を整理し、中長期的な視点でごみ処理のあり方を考えていく必要がある。

持続可能な処理

- 施設の長寿命化・延命化
- 処理の広域化、施設の集約化
- 老朽化した施設の適切な更新・改良

資源循環の取組の強化

- さらなる排出抑制の取組
- リサイクルの高度化

地域循環共生圏の構築

- 地域のエネルギーセンターとしての活用
- 災害時の防災拠点づくり
- 資源化のための拠点づくり
- 環境教育の場の提供

脱炭素化

- 処理に伴うCO₂の削減
- 熱の効率的な回収・利用